

1. はじめに

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、沿岸部を中心に大きなダメージを被り、流通機能が停止した発災直後において、公的備蓄を有していなかった当町は、災害時支援・協力協定による流通備蓄により、食糧調達をкаろうじて行うことができたが、大津波発生時の食料、生活必需品の日頃からの公的備蓄の重要性を改めて認識した。

平成24年10月には、県から最大クラスの浸水予測図（以下L-2津波という。）が公表され、おいらせ町においても、太平洋沿岸地区を主体に広範囲に浸水する予測となり、公的機関（自衛隊、県等）からの救援物資の支援が受けられない可能性が高いため、発災後から最低3日分の食料、生活必需品の備蓄を町独自で、公的備蓄を進めてきたところである。

また、令和2年からは新型コロナウイルス感染症流行に対応するため国の技術的助言を踏まえ、新型コロナウイルス感染症が流行している状況における、避難所等の感染症対策に万全を期すため、衛生物品等を公的災害備蓄として購入することとした。

2. 基本的な考え方

- (1) L-2津波発生時は、流通機能の停止により外部からの救援物資が届きにくいことから、「自らの身の安全は自らが守る。」という防災の基本理念に鑑み、住民等は日頃から、被災直後に必要な物資を備えておくことが必要である。そのため、住民等それぞれが3日分程度の食料、生活品等を備えるとともに、避難する際には備蓄品を持参し避難することが重要である。

しかしながら、震災時には、家屋の倒壊、焼失等により、備蓄品を持ち出せなかった避難者のために、必要最小限の食料及び生活必需品を町として備蓄しておく必要がある。

この際、流通備蓄、八戸圏域水道企業団の貯水等の活用も考慮して、必要最小限の備蓄品の購入に努めるとともに、災害時要配慮者（乳幼児、アレルギー要対応者、高齢者等）に配慮した食料品等の備蓄も重要となってくる。

- (2) 避難所等での新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、国、県からの指導及びガイドラインに基づき衛生物品等を早期に備蓄する必要がある。

また、感染症流行時には、被災地に限らず全国的に衛生物品需要拡大、供給不足の状況が予想され、早期調達が期待できない可能性が高いため、衛生物品の備蓄日数は7日間とするとともに、災害対応の中核となる対策本部要員270人も備蓄対象とした。

3. 公的備蓄の計画品目及び数量

(1) 備蓄対象者及び人数

ア 備蓄対象者

対象者数については、時期・時間帯によって流動的であるが、夜間等に災害が発生した場合の、対象者数が一番多くなると考え、県が公表したL-2津波浸水予測域の全住民とした。

イ 対象者数

L-2津波浸水想定地域には約 8,800 人の住民が居住しているが、大津波警報等が発令された際、3日分の食料等を持参して避難することを原則としているため、避難対象地区の全住民を備蓄対象とすることは、必要最小限の備蓄の考え方には適さない。

平成24年12月7日に発生した三陸沖地震(M7.3)において、宮城県に津波警報が発令されたが、石巻市の避難者の非常用持出品の持参率が約8割であったという事例を参考に、町としては避難者数の約7割が食料等を持ち出せると想定し、備蓄対象者数をL-2津波浸水想定地域(約8,800人)の3割(2,500人)とした。

※衛生物品については、対策本部要員(270人)も対象とする。

(2) 新型コロナウイルス感染症流行時の避難所

感染症予防の観点から、3密(密閉、密集、密接)を回避できる避難所の開設が重要であるため、指定避難所のうち空間が広く、換気的面から窓等が設置してある学校等の体育館を開設する可能性の高い避難所として想定した。

また、感染防止の観点から体調不良者専用の施設を開設することを想定した。

健康な人の避難所は、百石小学校を除く小中学校(7カ所)及びいちょう公園体育館、町民交流センター、みなくる館とし、体調不良者の避難所は北公民館、いちょう公園交流館の計12カ所とした。

(3) 公的備蓄品目及び数量等

ア 食料及び生活必需品等

品 目		数量	対象者数等	数量根拠
食料	アルファーマ	22,500 食 (450 箱)	2,500 人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2,500 人×3 食×3 日 =22,500 食 ・ 1 箱 50 人分=450 箱
	飲料水(500ml ペットボトル)	15,000 本 (625 箱)	2,500 人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 日 1 人の最低必要量は 3ℓで、1 日分 ・ 2,500 人×3ℓ=7,500ℓ 7,500ℓ÷500 ml(ペットボトル) =15,000 本 ・ 1 箱 24 本=625 箱 ※2 日目以降は水道企業団の緊急貯水槽等を活用
	粉ミルク	通常 24 缶 (300g)	25 人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 歳未満の乳幼児は約 1%で 25 人 ※令和 2 年 12 月末時点 ・ そのうち授乳幼児が 3 割 (7.5 人) 8 人 ・ 1 日 1 人 115g必要 (25 人-8 人)×115g×3 日=5,865g ・ 1 缶 300gなので 5,865g÷300g=19.55 缶≒20 缶 ・ 1 箱 (300g) 12 缶 12 缶×2 箱=24 缶
アレルギー対応	8 缶 (800g)	<ul style="list-style-type: none"> ・ アレルギーの割合は約 5% (1.25 人=2 人) ・ 115g×2 人×3 日=690g (1 箱 800g、8 缶入) 		
生活必需品	マイクロファイバー毛布	2,000 枚	2,000 人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 15 歳~50 歳の男性(約 20% : 500 人) 以外の避難者分 ・ 2,500 人 - 500 人 = 2,000 人

生活必需品	アルミ・ヒートブランケット		500 枚	500 人	・ 15 歳～50 歳の男性比率約 20%=500 人
	紙おむつ	乳児用	1,125 枚	25 人	・ 1 日 15 回交換 ・ 25 人×15 回×3 日=1,125 枚
		大人用	1,875 枚	125 人	・ 後期高齢者(約 10%:250 人)の半数 ・ 1 日 5 回交換 250 人×1/2×5 回×3 日=1,875 枚
	生理用品		1,250 個	500 人	・ 12 歳～50 歳の女性(約 20% : 500 人) ・ 対象者は 1 割とし 5 日間継続、1 日 5 回取り換え ・ 500 人×0.1×5 日×5 回×3 日=1,250 個
	哺乳瓶		30 本	25 人	・ 乳幼児の割合(1% : 25 人)に予備 5 本
	ロール・ペーパー		1,250 ロール	2,500 人	・ 2 人で 1 ロール使用 ・ 2,500 人×1/2=1,250 ロール
	ティッシュ・ペーパー		500 箱	2,500 人	・ 5 人で 1 箱使用 ・ 2,500 人×1/5=500 箱
	ウェット・ティッシュ		500 袋	2,500 人	・ 5 人で 1 袋使用 ・ 2,500 人×1/5=500 袋
	ゴミ袋 (70ℓ)		1,250 枚	2,500 人	・ 2 人で 1 袋使用 ・ 2,500 人×1/2=1,250 枚
トイレ用消臭凝固剤		132,00 セット	8,800 人	・ 収容避難所の便座(洋式)を活用し、袋式消臭凝固剤で対応 ・ 1 日 1 セットを 2 人分使用 ・ 8,800 人÷2 人×3 日=132,00 セット	

	敷きマット	250 個	250 人	・ 後期高齢者（約 10%:250 人）が使用 ※令和 2 年 12 月末時点
--	-------	-------	-------	--

イ 衛生物品等

品 目	数量	対象者、施設等	数量根拠
非接触型体温計	30 本	想定避難所 12 カ所 + 災害対策本部 1 カ所	・ (想定避難所 12 カ所 + 災害対策本部 1 カ所) × 2 本 + 予備分 4 本 = 30 本
歯ブラシ	3,000 本	2,770 人	・ 対象者数 2,770 人 + 予備分 230 本 = 3,000 本
手指消毒液 (1L アルコール)	300 本	想定避難所 12 カ所 + 災害対策本部 1 カ所	・ (想定避難所 12 カ所 + 災害対策本部 1 カ所) × 3 本 × 7 日 + 予備分 27 本 = 300 本 ・ 1 カ所あたり 3 本 (出入口、トイレ、洗面所) 設置し、1 日 3 本消費することを想定し、7 日分の数量
消毒用エタノール (500ml)	14 本	体調不良者等避難所 2 か所	・ 体調不良者等避難場所 2 か所 × 7 日 = 14 本 ※体調不良者等避難場所での体温計消毒用。 ※カット綿とセットで使用
カット綿	14 箱	体調不良者等避難所 2 か所	・ 体調不良者等避難所 2 か所 × 7 日 = 14 箱 ※体調不良者等避難場所での体温計消毒用。 ※カット綿とセットで使用

キッチンペーパー	116,340 枚 (20 箱)	2,770 人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2,770 人×6 枚×7 日 =116,340 枚 ・ 1 箱 7,200 枚入りを 17 箱+予備分 3 箱=20 箱
不織布マスク (大人用)	18,000 枚 (360 箱)	2,493 人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2,770 人×7 枚 (7 日) = 19,390 枚 + 予備分 610 枚 = 20,000 枚 ・ 1 箱 50 枚入りを 400 箱 ・ 全人口に対する 1~12 歳の割合 約 10% ・ 400 箱×90%=360 箱
不織布マスク (子供用)	2,000 枚 (40 箱)	277 人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2,770 人×7 枚 (7 日) = 19,390 枚 + 予備分 610 枚 = 20,000 枚 ・ 1 箱 50 枚入りを 400 箱 ・ 全人口に対する 1~12 歳の割合 約 10%・ 400 箱×10%=40 箱
使い捨てビニール手袋	5,000 枚	想定避難所 12 カ所 + 災害対策本部 1 カ所	<ul style="list-style-type: none"> ・ (想定避難所 12 カ所 + 災害対策本部 1 カ所) × 4 回 × 10 人 × 7 日 = 3,640 枚 ・ 1 箱 100 枚入りを 38 箱 + 予備分 12 箱 = 50 箱
段ボール製パーテーション	360 セット (2,160 枚)	想定避難所 12 カ所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 想定避難所 12 カ所 × 30 セット = 360 セット ※1 セット 6 枚
段ボール製ベッド	360 セット (360 箱)	想定避難所 12 カ所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 想定避難所 12 カ所 × 30 セット = 360 セット

フェイスシールド	400 個	想定避難所（体調不良者等用除く）10カ所	<ul style="list-style-type: none"> ・想定避難所（体調不良者等用除く）10カ所×5個＝50個 ・想定避難所（体調不良者等用）2カ所×2個＝4個 ・（50個＋4個）×7日＋予備分22個＝400個
----------	-------	----------------------	--

※ 年齢別人口割合は令和2年12月末時点のもの。

4. 保管場所

原則として防災資機材等備蓄倉庫に保管するものとし、備蓄倉庫に保管・収納できない物品は、都度関係各課との調整により、他の場所に保管できるものとする。

5. 整備計画

(1) 考え方

ア 食料品は賞味期限（5年間）を考慮し5年間で整備し、逐年で更新していく。

なお、賞味期限が設定されていない生活必需品については、原則として平成26年度に一括購入し、逐次抽出点検を行い、劣化等が確認された場合は逐次更新する。

イ 平成26年度以降の備蓄品目は、各年の予算が平準化するよう計画的に購入する。

ウ 備蓄品目等の見直しを逐次実施し、有効的（よりよい製品）かつ効率的（安価）な備蓄を追及する。

エ 賞味期限が近づいてきた備蓄食料品等は、町及び自主防災組織が実施する防災訓練、町が計画するイベント等において有効活用するものとする。

(2) 年度別備蓄計画

別紙のとおり。

6. 住民等による非常用持出品

(1) 非常持出品の備蓄

各家庭や企業では、非常持出品を備える必要がある。また、非常持出品は直ちに持ち出せるよう、リュックサックなど、持ち運びやすいものに収納することが大切となる。非常持出品の一例は次のとおり。

ア 食料品等

- ① 食糧（乾パン、缶詰、離乳食、粉ミルク）
- ② 飲料水（ミネラルウォーター）

イ 生活必需品等

- ① 救急医療品（常備薬、傷薬、風邪薬、消毒液、絆創膏、包帯、胃腸薬）
- ② 携帯ラジオ（電池多めに準備）
- ③ 貴重品（現金、貯金通帳、印鑑、運転免許証、健康保険証、権利証書）
- ④ 懐中電灯（できれば一人ひとつ）
- ⑤ その他（衣類、生理用品、ポリ袋、紙皿・紙コップ、保温シート、ウェットティッシュ、ヘルメット、防災マップ、マスク、タオル、軍手、万能ナイフ・ハサミ、雨具、ライター・マッチ、アルミホイル）

(2) 備蓄食料の条件

次のような条件を満たしたものが、備蓄食料として適している。

- ア 日常生活にも使え、なおかつ長期間保存に耐えられ栄養もあるもの
- イ 調理に手間がかからないもの（加熱しなくても食べられるもの）
- ウ 持ち運びに便利なもの（コンパクトであること）

年度別備蓄計画

1. 食糧品等 (3日分)

食料品等	更新 期間	備蓄基 準	備蓄総数 (食分)	各年備 蓄数	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和7 年度
アルファーマ	5年	3日分	22,500	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500
(白米)	5年	1日分	7,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
(お粥系)	5年	1日分	7,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
(各年毎決定)	5年	1日分	7,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
粉ミルク (普通)	1.5年	3日分	24缶 (300g)	24缶 (300g)	24 (300g)	24 (300g)	24 (300g)	24 (300g)	24 (300g)
(アレルギー)	1.5年	3日分	8缶 (800g)	8缶 (800g)	8 (800g)	8 (800g)	8 (800g)	8 (800g)	8 (800g)
飲料水 (500ml)	5年 2年	1日分	15,000本 (625箱)	2,520 2,400	2,520 2,400	2,520 2,400	2,520 2,400	2,520 2,400	2,520 2,400
(町購入)	5年	1日分	12,600本 (525箱)	2,520本 (105箱)	2,520 (105)	2,520 (105)	2,520 (105)	2,520 (105)	2,520 (105)
(水道企業団提 供)	2年		2,400本 (100箱)	2,400本 (100箱)	2,400 (100)	2,400 (100)	2,400 (100)	2,400 (100)	2,400 (100)

2. 生活必需品等 (3日分)

生活必需品等	更新 期間	備蓄基 準	備蓄総数	各年備 蓄数	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和7 年度
毛布	—	0.8枚 /人	2,000枚	H25 一括	0	0	0	0	0
アルミヒート ブランケット	—	0.2枚 /人	500枚	H26 一括	0	0	0	0	0
紙おむつ(乳幼児)	—	3日分	1,125枚	2,300 備蓄済	0	0	0	0	0
紙おむつ(大人用)	—	3日分	1,875枚	H26 一括	0	0	0	0	0
生理用品	—	3日分	1,250枚	H26 一括	0	0	0	0	0
哺乳瓶	—	1本 /人	30本	46本備 蓄済	0	0	0	0	0
ロール・ペーパー	—	1ロール /2人	1,250 ロール	H26 一括	0	0	0	0	0
ティッシュペーパー	—	1箱 /5人	500箱	H26 一括	0	0	0	0	0
ウエットティッシュ	5年	1箱 /5人	500袋	100袋	100	100	100	100	100
ゴミ袋(70L)	—	1枚 /2人	1,250枚	H26 一括	0	0	0	0	0
トイレ用消臭凝固剤	10年	3日分	132セット ・13200枚	H26 一括	0	0	0	132 セット	0
敷きマット	—	後期高齢 者用	250枚	H26 一括	0	0	0	0	0

3. 衛生物品等 (7日分)

衛生物品等	更新 期間	備蓄基 準	備蓄総数	各年備 蓄数	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和7 年度
非接触体温計	—	指定避難 所数等	30本	R2 一括	0	0	0	0	0
歯ブラシ	—	避難等対 象者数	3,000本	R2 一括	0	0	0	0	0
手指消毒 (1Lアルコール)	3年	指定避難 所数等	300本	R2 一括	0	150	150	150	150
消毒用エタノール (500ML)	3年	体調不良者 避難場所数	14本	R2 一括	0	7	7	7	7
カット綿	—	体調不良者 避難場所数	14箱	R2 一括	0	0	0	0	0
キッチンペーパ ー	—	避難等対 象者数	144,000 枚(20箱)	R2 一括	0	0	0	0	0
不織布マスク (大人用)	—	避難等対 象者数	20,000枚 (360箱)	R2 一括	0	0	0	0	0
不織布マスク (子供用)	—	避難等対 象者数	2,000枚 (40箱)	R2 一括	0	0	0	0	0
使い捨てビニール 手袋	—	指定避難 所数等	5,000枚 (50袋)	R2 一括	0	0	0	0	0
段ボール製パー テーション	—	指定避難 所数等	2,160枚 360セット	R2 一括	0	0	0	0	0
段ボール製ベッド	—	指定避難 所数等	330セット ※現有30 セット	R2 一括	0	0	0	0	0
フェイスシール ド	—	指定避難 所数等	400個	R2 一括	0	0	0	0	0